

麦づくり情報(No.3)



1) 調査結果(2月9日調査)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	概況
牛 津	サチホゴールド 4条播き	本年値	12/7	12.3	535	5.5	草丈は平年よりやや高い。(107%) 茎数は平年と同程度。(102%) 葉令からみた生育は平年並。
		平年値	12/4	11.5	524	5.0	
		農試本年値	12/10	15.1	348	3.7	
		農試平年値	12/10	11.5	393	4.2	
大 和	シロガネコムギ 8条播き	本年値	11/18	16.7	1108	7.9	草丈は平年より高い。(136%) 茎数は平年よりかなり多い。 (216%) 葉令からみた生育は平年に比べ、 早い。
		平年値	11/28	12.3	513	4.9	
		農試本年値	11/20	19.5	1037	6.6	
		農試平年値	11/20	19.9	642	6.3	

気象概要：1月5半旬～2月1半旬は平年より高温多湿で推移

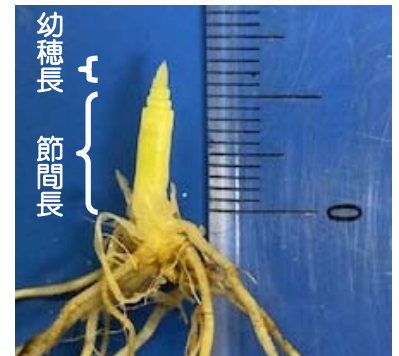
1月5半旬の平均気温は平年比+6.7℃とかなり高く、1月6半旬～2月1半旬も、平年比+2.1℃と高く推移した。降水量は周期的な降雨があったことで、平年比190%と多く、日照時間は平年の109%と平年並みであった。

生育概況

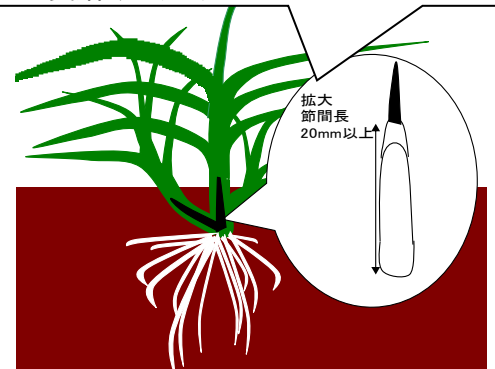
○11月中旬播種の小麦は現在7～8葉期となっており、節間伸長期を迎えている。分けつが発生も旺盛で平年よりも早い生育となっており、情報田(11月中旬播小麦)では現在節間長10～15mm、幼穂長1～2mmとなっている。(右写真)。

○12月上旬播種の大麦は5～6葉期となっており、初期生育が乾燥・寒波で遅れたものの現在は平年並みの生育となっている。

○11/25以降播種で乾燥・寒波などの影響で出芽がバラついた圃場の一部では、生育ムラが見受けられている。



茎立期(節間長が20mm以上)
この時期になると、幼穂を傷つける
ため麦踏みは避ける



茎立期

2. 今後の管理

○穂肥施用について

11月中旬播種の小麦は、平年より早く生育が進んでいるため、穂肥の施用にあたっては暦(2月下旬～3月上旬)を参考に遅れないように施用する。茎立期(右図の時期、別添：小麦出穂期予測を参考)を迎えている圃場では、麦踏みを行いながらの施肥は避け、動力散粒機やブロードキャスター等で散布する。

◎肥効を高めるため、穂肥後に土入れを行うとより効果的である。

○麦踏み・土入れ

<麦踏み>

- ・11月下旬播種の小麦は麦踏み可能な圃場が多いが、11月上旬播種で茎立期を迎えた圃場では、初期分けつ茎が折れ、穂数の減少や倒伏抵抗力が低下することがあるため実施しない。
- ・土壌が湿潤な状態で行うと、土が締まることで通気性が低下し、根の活性を阻害するため、必ず土壌が乾燥した状態で行う。
- ・麦踏みの最終時期は節間伸長開始時期～茎立期まで(草丈25cm程度)

<土入れ>

- 本葉5～6葉期から、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- 出芽遅れなどにより生育が遅れている圃場は、生育が進んでから行う。
- 土の量は、生育初期は少なめにし、生育が進むにつれて量を増していく。
- 茎数が過剰な圃場（暦より播種時期が早いや播種量が多い）では、茎が細くなり、倒伏しやすく、品質の低下につながる。例年より土入れを1～2回多くし、過剰分けつの抑制を図る。

○排水対策

生育期間中の湿害が根の張りに大きく影響する。また、今後は降雨量が増えることが予測されるため、速やかに排水できるよう、降雨が多くなる前に、溝を排水口まで通すなど整備し、圃場内に滞水しないように、管理する。

○雑草対策

高温多雨で推移したため、雑草の発生も多くなっている。雑草の発生が見られる圃場では、土入れとあわせて除草剤の処理時期を逸さないように早めに茎葉処理剤を施用する。

【注意事項】

麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

土入れ：除草剤散布直後に行うと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメタマゴ かノゴサ	5～10g	100L	は種後～節間伸長前 ※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで	1回以内	・かノゴサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する
アクチノール乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	・ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類に効果が高い
エコパートフロアブル※1	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	50～100ml	100L	節間伸長開始期まで (広葉2～4葉期) (ヤエムグラ2～6節期) ただし収穫45日前まで	2回以内	・薬害が出やすい ・ヤエムグラに効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100～200ml	70～100L	生育期(雑草3～6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	

※1 以下の場合、薬害が生じることがあるので留意する。

- 重複散布は避け、麦が生育不良の場合は使用を避ける。
- 効果、薬害に問題がないことが確認されていない薬剤との同時施用や7日以内の近接散布は避ける。

令和3年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター

